

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人 結の会

1. プロジェクト名

竹資源開発の継続と市民ネットワークによる竹紙文化の創造と普及

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

- ・社会の一員として障害者施設が認められるためには、施設において行うモノづくりにあっては付加価値がある製品を目指すべきである。
- ・地元の放置竹林の竹を原料とする壁紙づくりはネットワークを育む魅力があり、結の会の重要な製品となりつつある。壁紙以外の用途を積極的に見出し発信し、地域の特産品としての認知を得たい。この取り組みを通して、ネットワークを発展させたい。
- ・前年度の助成により生産体制整備が進んだので、繊維の増産対応と品質向上に取り組みたい。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

竹紙を工芸材料とすべく、竹うちわづくり ワークショップ を実施したほか、都立高等専門学校が主催する子供向けサイエンスフェスタでは、竹紙の科学的側面と環境保全事業の側面を啓発するとともに、漉いた竹紙はがきにちぎり絵を描く内容とした。子供達を中心に200名が参加した。

紙漉教室は結の会改築のため半年間の開催となった。

第1回「竹のある暮らし展開催」を10団体の参加で実施し、各団体が展示品を持ち寄り即売した（※別紙参照）。又、老齢竹林を効果的に更新できる竹チップについて装置を持つ造園会社と協力関係が出来、竹チップの調査に着手した。その他、竹の楽器の専門音楽集団である東京楽竹団との交流した。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

竹にかかわる団体などのコラボレーションが生まれるように心がけた。東京楽竹団の場合、「竹のある暮らし展」、竹林での交流会の中でミニ演奏会を実現し、地域の人知ってもらった。その結果、地域の祭りに楽竹団が呼ばれることになった。

比較的新しい竹資源の用途の一つとして一部で注目されている竹チップについては地元の造園会社の弱点となっていた製造と販売面での協力をし、今後も協力関係を作っていく体制が整った。

障害者施設と市民団体との竹紙づくりは顧客への訴求性があり、竹壁紙の受注が20件となった。顧客自ら壁紙を作るケースもあり、生産面でも顧客を呼び込めるシステムである。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

第1回「竹のある暮らし展」開催によって、竹に関心を持つ団との具体的なつながりを創りだせた。この企画展は当初の計画にはなかったが、ネットワークという視点において、今後の展開に結びついた。第二回に向けて準備を始めている。一緒に取り組むことで相互刺激が起きて今後の期待できる。

計画では、竹林整備と竹紙についての冊子を作る予定であったが、間に合わず、来年度の作成とした紙すき教室、竹うちわづくり以外に各種講座が企画実施出来なかった。理由は、年度途中で、急きよ、結の会が自立支援法に移行が決定したことで、そのため、紙漉き場を含む作業棟を改築することになり、設備、場所の問題が大きく講座の企画が出来なかった。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり。特になし

『竹のある暮らし展』開催しました

9月1日～9月6日まで、高尾駅近くのギャラリー「むみじか」にて開催しました。結の会では、市民活動団体「八王子すまいづくり市民塾」と協力し、竹紙の生産をしていますが、竹林を整備していく中で、竹資源の可能性を広げる機会として開催しました。結の会が主催で、八王子市内を基点として竹を通して活動している個人・団体が集い、展示即売会を行いました。竹は衣・食・住に、昔から馴染みが深いですが、中国の竹製品に押され、日本の竹資源は竹林荒廃といった現状があります。今回は竹を知ることテーマに様々な作品が展示され即売されました。東京楽竹団の演奏は、観る人を引き付けました。様々な視点から竹資源の広さが紹介できたのではないかと思います。

(中川)



～ 参加した10の団体・個人の紹介をします～

《ユニバーサル工房》は燻竹(くんちく)。燻竹は、竹を丸ごとスモークにしたもので、造園の竹垣根使われ、竹枝の燻製は華道に使われる。(写真左)《東京楽竹団》はもうそう竹、真竹などから自作した竹楽器を演奏するプロの演奏家。竹の持つ音の多彩さ、どこか遠くへ連れて行ってくれる響き、身体に染み渡りました。市民塾が整備している竹林からも楽器が生まれます。(写真右)。《(有)林庭園・造園会社》は竹を粉碎し、繊維化した土壌改良材の竹パウダーを。竹を粉碎した肥料。枯葉が土の上に落ちて、徐々に肥料となっていく過程と同じように、土の上に竹パウダー撒いて使います。《結の会》は市民塾のみなさんが、繊維化した竹から竹紙を制作しています。竹紙は、設計事務所を通して竹壁紙になります。《のわプロジェクト》は結の会の和紙を購入し、版画家の羽生田有紀さんに木版を刷っていただき、販売しました。《八王子すまいづくり市民塾》は竹笛、竹のおもちゃ、竹紙障子、竹紙襖、竹細工製品等。《もぐらほうす》は竹炭石鹸、竹炭まくら、竹炭など。《ケーナ工房モニターニャ》は自作のケーナを販売。《(有)鎌倉すざく》は竹炭塗料、竹炭など。《大分の竹作家・遠藤夫妻》はさすが竹細工職人といった、作品です。高価ですが、いいものは売れるという作品でした。この展示会を機に、より八王子の大きな竹のネットワークが広がったのではないのでしょうか？来年に向けて、磨きのかかった、展示会にすべく、準備に今からスタートしています！

